



# 仁淀病院からのお知らせ



## 仁淀病院からのお知らせ

仁淀病院 主任看護師 井上 千加

### ◆ 内視鏡検査について ◆

近年、男女を問わず、胃がん・大腸がんになる方が増えてきています。特に大腸がんは食事の欧米化（高脂肪、高蛋白、低繊維）に伴い年々増加しています。このような重大な病気も早期に発見すれば治療できる可能性が高いため、いかに早期発見・早期治療を行うかが非常に重要です。次のような胃・腸の症状のある方は、スクリーニング的な内視鏡検査をお勧めします。

- ・ 胸焼け、腹痛、吐き気が続く
- ・ 健康診断で再検査になった
- ・ みぞおちの辺りがチクチク痛む
- ・ 家族に胃がんになった人がいる
- ・ ストレスで胃が痛くなる

- ・ 大腸ポリープを指摘されたことがある
- ・ 便が細くなった
- ・ 血便が出る
- ・ 便潜血反応が陽性
- ・ 家族に大腸がんになった人がいる

胃内視鏡検査  
(経鼻内視鏡検査)



大腸内視鏡検査

当院では胃カメラ（胃内視鏡検査）と大腸内視鏡検査を行っています。内視鏡検査はつらい、怖いといったイメージを持たれている方が多いと思いますが、当院ではできるだけ気楽に検査を受けていただけるよう心掛けています。

### 上部内視鏡検査（胃カメラ）

上部内視鏡検査（胃カメラ）は、カメラを口から挿入して、食道、胃、十二指腸を観察する検査です。カメラが食道に入るまでは緊張感も強く息ができないような気持ちになりがちです。このような緊張や不安を少しでも和らげることができるよう看護師が呼吸法や、力の抜き方、唾液の出し方などの声を掛けながら検査中付き添い安心して検査を受けていただけるようにしています。

また、「のど」の麻酔を丁寧に行い、苦痛を軽減できるよう努めています。より苦痛が少ないといわれる経鼻内視鏡も患者さんの希望に合わせて実施しています。経鼻内視鏡につきましては、長所短所がありますので、外来診察時に医師に相談ください。



### 大腸内視鏡検査

大腸内視鏡検査は、カメラを肛門より挿入し盲腸までの大腸にポリープ・腫瘍・炎症そのほかの異常がないか直接観察する検査です。検査中にポリープが見つかった場合は、切除可能であれば検査時に併せて切除することも可能です。（ポリープを切除した場合は、経過観察のため短期間の入院が必要になります。また、抗凝固薬を服用している場合など状況により切除できない場合があります）

検査中は全身の力を抜いていただくのが楽に行うコツです。リラックスして検査が受けられるようにできるだけお話をしながら無理なく進めていきます。空気が腸管に入りますのでお腹が張るのを感じたり、違和感を感じることもあります。また、スムーズに検査を進めるため体の向きを変えたり、お腹を手で圧迫したりすることがありますが看護師が付き添い少しでも楽に検査を受けていただけるようにしています。

検査につきましては事前に医師の診察・検査の説明・同意・予約などが必要となります。詳しくは外来までお尋ねください。